

## 精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 Bさん(30歳, 女性, 統合失調症)は, 週に4日, 配送センターで仕分業務に従事して3年目となる。利用する障害者就業・生活支援センターのC就労支援担当者(精神保健福祉士)を訪れ, 「配送センターの所長に, 繁忙期は勤務日数を増やし, 1日8時間勤務できないと雇用継続は難しいと言われた。これ以上働くと体調が不安で, 通院する時間もなくなる。仕事は辞めたくない。でも, 怖くて何も言えなかった」と訴えた。そこで, C就労支援担当者はBさんとの合意を得て, 配送センターを訪問して所長に話をした。

次のうち, この場面でC就労支援担当者が果たした役割として, 正しいものを1つ選びなさい。

- 1 インフォームドコンセント
- 2 アドボカシー
- 3 リスクマネジメント
- 4 セカンドオピニオン
- 5 アカウンタビリティ

問題 37 次の記述のうち, 精神科リハビリテーションにおけるアプローチの説明として, 正しいものを1つ選びなさい。

- 1 I M R (Illness Management and Recovery)は, 支援者が症状を管理する。
- 2 I P S (Individual Placement and Support)は, 本人の希望に基づいて, 雇用を目標に支援する。
- 3 家族心理教育は, 家族病理に焦点を当てて治療を行う。
- 4 包括型地域生活支援プログラム(ACT)は, グループワークを通して回復を目指す。
- 5 ピアサポートは, 経験的知識よりも精神保健福祉の専門的知識を用いる。

問題 38 次の記述のうち、精神科専門療法に関する説明として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 急性期の入院患者に対する作業療法は、生活管理技能の改善を主目的とする。
- 2 社会生活技能訓練(SST)の基本訓練モデルは、あらかじめ獲得すべき技能が設定されている。
- 3 アルコール専門外来で行う集団精神療法は、各回の自由参加を原則とする。
- 4 うつ病に対する認知行動療法は、捉え方の偏りを修正して問題解決を促す。
- 5 統合失調症に対する心理教育は、精神分析療法を用いて展開する。

問題 39 次の記述のうち、精神保健福祉士が連携する職種の役割として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 公認心理師は、不安や抑うつを訴える患者のストレス反応の評価を行う。
- 2 薬剤師は、不安で眠れない患者への、睡眠導入剤の処方を行う。
- 3 作業療法士は、食事摂取カロリーが気になる患者に、献立の作成を行う。
- 4 介護支援専門員は、転倒を繰り返す患者に、歩行機能の訓練を行う。
- 5 医師は、障害福祉サービスの利用を希望する患者への、申請書の作成を行う。

問題 40 次の記述のうち、相談援助過程におけるインターベンションの説明として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 相談援助過程を振り返り、契約の終了に向けて準備する。
- 2 援助計画の進捗状況と達成状況を評価する。
- 3 個々のニーズの充足に向けて援助者や援助機関が各々の役割を遂行する。
- 4 課題分析で明らかになったニーズを充足する社会資源を選定する。
- 5 クライエントのニーズや環境に関する情報を包括的・総合的に精査する。

問題 41 U精神科デイケアを利用するDさんは、デイケア担当のE精神保健福祉士に相談した。「先日、隣家の玄関前に空き缶が落ちていました。その横を通り過ぎたところ、いきなり隣人から、『空き缶を捨てたのはお前か』と怒鳴られました。その時は、『違います、私じゃないです』と答えましたが、精神障害者だからそう思われたのですかね。誤解なの<sup>か</sup>に」と唇を噛みしめながら訴えた。E精神保健福祉士は、「Dさんが捨てた物ではないのに、誤解されて、悔しかったですね」と話したところ、Dさんは小さくうなずいた。

次のうち、この場面でE精神保健福祉士が用いた面接技法として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 励まし
- 2 要約
- 3 言い換え
- 4 繰り返し
- 5 感情の反映

問題 42 次の記述のうち、発達障害のある学生に対して、キャンパスソーシャルワーカー(精神保健福祉士)が行う支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 履修登録の仕組みの理解が難しい場合、本人の代わりに履修登録をする。
- 2 計画的な課題提出が難しい場合、提出期限を変更するよう教員に依頼する。
- 3 書字障害がある場合、書き取りの練習を繰り返すように助言する。
- 4 授業中に照明がまぶしいと感じる場合、サングラスを使用できるように大学と調整する。
- 5 教員からの質問の意味が分からない場合、自分なりに解釈してよいと伝える。

問題 43 V地域活動支援センターのF精神保健福祉士は、一人暮らしをしている利用者を対象としてグループワークを始めることとした。F精神保健福祉士は、開始に当たり、参加するメンバーと個別に面接を行った。最近通い始めたGさんは、「まだ、みんなになじめていないので緊張します」と話した。F精神保健福祉士は、Gさんがグループに対して期待することや不安に感じることを聞くとともに、一人暮らしの様子を聞きながら、Gさんの考えや性格傾向についても把握を試みた。

次のうち、この時点でF精神保健福祉士が活用した援助技術として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アイスブレイク
- 2 集団規範の形成
- 3 感情転移の活用
- 4 個人体験の分かち合い
- 5 波長合わせ

問題 44 次の記述のうち、相談援助活動におけるコンサルテーションに関する説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 コンサルテーションは、コンサルティの専門性に関する支援の振り返りを促すことである。
- 2 コンサルタントは、助言した結果に責任を負う。
- 3 コンサルティは、取り上げる問題に応じてコンサルタントを選定する。
- 4 コンサルタントは、監督・指導する管理的機能を持つ。
- 5 コンサルティは、受けた助言を採用する際に、コンサルタントの許可を得る。

問題 45 次のうち、相談援助機関に配置される職員として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 児童相談所の精神保健福祉相談員
- 2 就労移行支援事業所の相談支援専門員
- 3 地域活動支援センター I 型の精神保健福祉士
- 4 ひきこもり地域支援センターの児童福祉司
- 5 障害者就業・生活支援センターの障害者職業カウンセラー

問題 46 次の記述のうち、精神障害がある者のリカバリーについての説明として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 全ての人と同じリカバリーの過程を経る。
- 2 本人が自由に挑戦できるよう、支援者が責任を負う。
- 3 本人の障害の部分に焦点を当てる。
- 4 希望はリカバリーを支える原動力となる。
- 5 身体的状況を切り離し、精神的な回復を図る。

問題 47 次の記述のうち、精神障害者のケアマネジメントにおけるリハビリテーション型モデルの説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 利用者に社会資源をあっせんし、双方を結びつける機能を中心とする。
- 2 多職種による訪問支援チームが、24 時間対応をする。
- 3 利用者との個別の治療関係に基づき、心理的アプローチを重視する。
- 4 環境調整を行いながら、能力障害に焦点を当て、生活技能の獲得を支援する。
- 5 利用者とその環境の潜在能力を引き出し、セルフケア能力を高める。

問題 48 グループホームを運営しているH精神保健福祉士のところへ、近所でアパート経営をしているJさんが相談に来た。内容は、アパートの空き家対策としてのグループホームへの転用と、それによる利用者と地域住民とのトラブルの心配についてであった。H精神保健福祉士はJさんとの話から、不動産関係者が精神障害者について理解すれば、空き家をグループホームとして活用でき、精神障害者が地域住民の一員として溶け込んで、コミュニティケアが進むのではないかと考えた。そこでH精神保健福祉士は、自身の参加している支援協議会でアパート経営者や不動産関係者向けの精神障害者支援セミナーの開催を提案した。

次のうち、H精神保健福祉士が提案する際に意図した精神障害者支援の理念として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルインクルージョン
- 2 ソーシャルロール・パロリゼーション
- 3 ソーシャルジャスティス
- 4 ソーシャルイクオリティ
- 5 ソーシャル・コンストラクショニズム

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

### 〔事 例〕

P 市に住む K さん(30 歳, 女性)は, 学生時代に通院していた精神科病院を L 君(5 歳, 男児)と共に受診した。診察に際して M 精神保健福祉士がインテーク面接を行った。K さんは, 「5 年前に結婚し, すぐに L を出産したが, 2 年半前に離婚した。働きながら L を育ててきたが, 3 か月程前から不眠が続き, 仕事に行けなくなり, 先月, 突然解雇を言い渡された。もう生きていてもしょうがない」とうつろな表情で話した。M 精神保健福祉士は, K さんの来院をねぎらい, 傾聴した。同時に, K さんの手首に巻かれたハンカチから血がにじんでいることや, L 君は 5 歳児にしては小さく痩せていること, 不衛生な身なりで表情が乏しいことが気になった。(問題 49)

診察の結果, K さんには自傷行為が認められ, 希死念慮が強く, 入院治療が必要と判断された。当初 K さんは, 「身寄りもなく, L を残して入院できないしお金もない」と入院に同意しなかった。しかし, 主治医より入院の必要性について説明され, M 精神保健福祉士が L 君への支援と, 経済的な支援について説明すると, ほっとした表情を浮かべ入院に同意した。K さんの入院と同時に, L 君は一時保護となった。

入院後, K さんは M 精神保健福祉士との面談で, 「酒飲みの父親は私に頻繁に暴力を振るったが, 母親は助けてくれなかった」「離婚した夫も, 酒を飲むと私と L に暴力を振るった」「離婚後, L を厳しく叱り, 世話をできないことが続いた。気付くとリストカットを繰り返していた」と語った。M 精神保健福祉士は, 誰にも相談できずに苦しんできた K さんに寄り添い, 傾聴した。(問題 50)

一時保護所の A 児童福祉司(精神保健福祉士)は, L 君が声かけにほとんど反応せず, 言語発達の遅れがみられるため, P 市と連携して L 君の養育環境の整備を開始した。M 精神保健福祉士は, K さん及び主治医, A 児童福祉司と共に K さんの退院後の生活について話し合う場を設けた。A 児童福祉司が, 母親と暮らすことを希望する L 君の意向を伝えると, K さんは, 「退院して L と一緒に暮らしたいが自信がない」と語った。(問題 51)

問題 49 次の記述のうち、この時点で、必要な情報を収集するために、M精神保健福祉士が行う質問の内容として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 Kさんへ「L君がいるのになぜ離婚したのですか」
- 2 L君へ「何をしているときが楽しいですか」
- 3 Kさんへ「怪我をしているようですが、どうしましたか」
- 4 L君へ「片足でケンケンできますか」
- 5 Kさんへ「L君を毎日お風呂に入れていますか」

問題 50 次の記述のうち、この時点で、M精神保健福祉士がKさんに向けた言葉として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「過去に受けた暴力は、時間の経過とともに解決されます」
- 2 「あなたのどんな行動が、離婚した夫をそんなに怒らせたのでしょうか」
- 3 「そういうことはよくあることなので、あまり気にしない方がいいですよ」
- 4 「今の状況をあなたが変えようと思わなければ、私は何もできないのです」
- 5 「自分を傷つけたくなるほどつらかったのですね。今回のように話ができるといいですね」

問題 51 次の記述のうち、この話合いの場で提案されたKさん及びL君への支援の方針として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 L君の発達支援のために、居宅訪問型児童発達支援を利用する。
- 2 L君の安全確保のために、里親制度を活用する。
- 3 Kさん親子の経済的安定のために、就職活動を開始する。
- 4 Kさん親子をいつでも支援できるように、関係機関との連携体制を構築する。
- 5 Kさんが過去の体験に向き合えるように、入院治療の継続を調整する。

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 52 から問題 54 までについて答えなさい。

### 〔事 例〕

B 精神保健福祉士は、社員のメンタルヘルス対策の強化に伴い、大手製造メーカーの健康相談室に新たに採用された。ある日、健康相談室に製造管理課の C 課長が欠勤が続く部下のことで相談に訪れた。C 課長の話は、「部下の D さんは、責任感が強い<sup>ふが</sup>ため、多くの仕事を引き受けていた。無理をさせてしまった。D さんに電話すると、『気持ちが落ち込み、眠れない。出勤できない自分が不甲斐ない』と自分を責めており、対応に困っている」とのことだった。B 精神保健福祉士は C 課長が心配している気持ちを聞き、D さんへの対応について助言した。(問題 52)

その後、C 課長は、「D さんは仕事を休んでいるものの、体調は落ち着いてきたようだ」と B 精神保健福祉士に報告した。また、C 課長は、「実は、他にも心配な部下が何人かいる」「部下たちは仕事の負担が多くても、無理して頑張っているように思う」「取引先の納期の意向に沿えないことで営業課に批判され、部下たちの努力が社内で評価されていないのが悔しい」と語った。B 精神保健福祉士は、この状況を人事担当者<sup>に</sup>伝え、ストレスチェックの集団分析の結果、製造管理課は総合健康リスクが高いことを確認した。同課は高ストレスの傾向にあり、仕事の量的負担が高く、互いを気遣っているものの同僚からの支援は受けにくい傾向であることが分かった。そして、人事担当者から高ストレスの要因となる職場環境の改善について取り組むよう依頼を受けた。B 精神保健福祉士は、人事担当者や C 課長と検討し、改善に向けた具体策に取り組んだ。(問題 53)

B 精神保健福祉士は、取り組む中で、製造管理課の社員の多くは良い製品を作ること<sup>を</sup>考え、妥協を許さない仕事ぶりが顕著であると感じた。そして、B 精神保健福祉士は、今の問題を解決するための一助として、職場環境の改善に加えて、社員一人ひとりがよりよい対処法を身に付けるための基礎的な研修が必要と考え、人事担当者<sup>と</sup> C 課長の了承を得て、業務内で製造管理課の社員が参加できるように研修企画を進めた。(問題 54)

問題 52 次の記述のうち、この時点での、B精神保健福祉士のC課長に対する助言として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「半日から出社することを伝えてみませんか」
- 2 「別の部署に移ることを提案してみてもはどうですか」
- 3 「経済的な心配があれば、障害年金の手続を伝えてはどうですか」
- 4 「産業医への相談を勧めてみませんか」
- 5 「健康診断を受けるように勧めてはどうですか」

問題 53 次の記述のうち、B精神保健福祉士が取り組んだこととして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 取引先の意向に沿えなかった理由を社内に公表する。
- 2 C課長に高ストレスの要因を改善する計画の作成を一任する。
- 3 製造管理課の業務量を可視化し、課内で共有する。
- 4 休日に製造管理課の社員全員が集まる親睦会を開催する。
- 5 同僚に対する気遣いを言葉にして伝え合う場を設ける。

問題 54 次のうち、B精神保健福祉士が企画した研修の内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 労働時間と疲労度のセルフチェック
- 2 社員のメンタルヘルス不調の三次予防
- 3 職場におけるハラスメントの理解
- 4 自分の要求を抑えて、職場環境に適応するよりよい対処方法
- 5 精神疾患のある社員への合理的配慮の具体例

### (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 55 から問題 57 までについて答えなさい。

#### [事 例]

E さん(33 歳、女性)は、大学卒業後に仕事をしていた 27 歳の時に統合失調症と診断された。一時は入院していたが、現在は通院を続けながら一日中自宅で過ごしている。E さんは今後の生活が心配になり、主治医に話したところ、精神科デイケアの利用を勧められた。

デイケア担当の F 精神保健福祉士による初回面談で、E さんは、「一日中家にいて、いろいろ考えて不安に押しつぶされる感じがする。家族から仕事はどうするのかと聞かれると、焦りが強くなる。今の生活を変えたいけれど、新しい場所でうまくやれるか、不安が先に立つ。まずは生活リズムを整えたい。将来的には仕事も考えたい」と話した。F 精神保健福祉士は E さんの気持ちを受け止め、週 1 日のデイケアを複数回体験することを提案した。(問題 55)

体験後に E さんは、「同世代の人がいて、自分と同じように悩んでいる人もいる。今後も継続して利用したい」と話し、週 3 日のデイケア利用を開始した。

1 か月が過ぎた頃、E さんから F 精神保健福祉士に、「デイケアに通い始めて、規則正しい生活にはなった。でも、多くのメンバーと話して仲良くなりたい、次のステップにつなげたいと頑張れば頑張るほど、うまくいなくて焦りが強くなる。疲れてるのかな。どうしたら自然にできるんだろう」と相談があった。相談を受け、F 精神保健福祉士は E さんの援助方針を検討するスタッフ会議を開催した。(問題 56)

利用から半年が過ぎ、グループ活動の企画に取り組むなど、生き生きとした姿が少しずつ見られるようになった。F 精神保健福祉士はモニタリング面談で、「これまでの活動を振り返り、感じていることを教えてください」と尋ねた。E さんは、「メンバー同士で支え、支えられることで、新しい自分が生まれてきた感じ。少しずつ希望が見えてきた。これからも迷ったり、悩んだりすると思うけど、今はちょっとだけ前向きになれた自分を褒めてあげたい」と話してくれた。(問題 57)

問題 55 次の記述のうち、この時点でF精神保健福祉士が行うこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Eさんの支援計画を立案する。
- 2 外来担当の看護師からEさんの受診や生活の情報を得る。
- 3 就労経験のあるデイケア利用者からEさんへ就職活動体験談を話してもらう。
- 4 Eさんの住む地域を担当する民生委員からEさんの情報を得る。
- 5 就労移行支援のためのチェックリストを用いて、Eさんの作業能力を評価する。

問題 56 次の記述のうち、このスタッフ会議でF精神保健福祉士が提案したこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「Eさんと家族が希望している就労プログラムを勧めてみましょう」
- 2 「これまでどおり生活リズム改善を主目標にすすめましょう」
- 3 「レクリエーションの司会進行をお願いしてみましょう」
- 4 「疲労は再発につながるので、デイケアを休むことを助言しましょう」
- 5 「Eさんに声かけして見守りつつ、少人数活動への参加を促してみましょう」

問題 57 次のうち、F精神保健福祉士が、Eさんの語りから評価した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 生活技術の獲得
- 2 疾病や障害に対する正しい知識の獲得
- 3 役割モデルの獲得
- 4 自己効力感や自己有用感の向上
- 5 社会改革に向けた意識の醸成

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

### 〔事 例〕

Gさん(50歳、男性)は、両親と農業を営んでいた28歳の時に統合失調症を発症した。通院や服薬が不規則になることがきっかけで病状が悪化し、数回の入退院を繰り返している。今回の入院が3年と長くなったのは、病状が安定するまでに時間を要したり、父親にがんが見つかって、母親がその看病や介護に追われたことも重なったからである。

H精神保健福祉士は、Gさんが入院している病棟に異動してきたばかりであり、前任者から、「自宅では母親が一人で暮らしている」と申し送りを受けた。そこで、H精神保健福祉士は母親からGさんの今後についての考えを聞くことにし、面会に来院した際に面談した。母親は、「今まではGの病気が悪くなると、夫が何とかその場を収めて病院に連れて行っていた。でも今、夫は他界し、遠方にいるGの弟は疎遠なので頼れない。もし家でGの病気が悪くなったら、私だけでは不安がある。でも、今は病状が落ち着いているし、Gが希望すれば家に帰ってきてよいとも思っている」と話した。そこで、H精神保健福祉士はGさんと面接したが、Gさんは、「退院したくない、ここにいる」と素っ気なく発言して視線を外した。(問題 58)

その2か月後、H精神保健福祉士は、病棟スタッフと退院支援活動を行うこととし、Gさんや入院患者数名に声をかけ、週に一度退院に向けて活動するグループを作った。グループ活動を開始して1か月後、H精神保健福祉士は、入院経験があり、地域活動支援センターを利用しているJさんにゲストとして参加してもらった。(問題 59)

その後、Gさんの退院が決まり、H精神保健福祉士は母親と面談した。母親は、「Gが家に帰ってきて、食事の支度や洗濯などは何とかなる。でも、Gが自分できちんと薬を飲み、再発せずに規則正しく生活を送れるかどうかが不安。何か手助けしてくれるものはないだろうか」と話した。(問題 60)

問題 58 次の記述のうち、この時点で、H精神保健福祉士が行う支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 主治医にGさんの入院継続の希望を代弁する。
- 2 Gさんとの面接回数を増やす。
- 3 プライバシーを尊重し、病棟のスタッフにはGさんとの話の内容を秘密にする。
- 4 Gさんと母親に、一緒に家族会に参加するよう促す。
- 5 Gさんの弟に退院を勧めるよう手紙を送る。

問題 59 次の記述のうち、この時点で、H精神保健福祉士がJさんに期待した役割として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 退院後の生活が想像できるような話をしてもらう。
- 2 病院で依存的な生活を続けないよう助言してもらう。
- 3 利用できる障害福祉サービスの手続について説明してもらう。
- 4 家族と経済的援助の約束を交わすよう促してもらう。
- 5 銀行のキャッシュカードの使い方を教えてもらう。

問題 60 次のうち、この時点において、H精神保健福祉士がGさんの母親に紹介した制度として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 居宅介護
- 2 精神科訪問看護
- 3 行動援護
- 4 日常生活自立支援事業
- 5 障害支援区分の認定調査